

2025年3月12日

JR西日本あんしん社会財団 2025年度公募助成（活動及び研究）

～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

公募助成の助成先（活動団体・研究者） が決定しました！

○ 応募状況及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2025年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止並びに事故・災害等の風化防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究（1年及び2年助成）を広く募集しました。新たに設定した、令和6年能登半島地震に伴う活動助成（特別枠）の応募を除いても、昨年より応募が増え、活動助成48件、活動助成（特別枠）17件、研究助成51件の計116件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で44件、2,830万円の助成を行うことを決定しました。

| | 応募件数 | 助成決定 | | |
|-----------|------|------|----------------------|-----|
| | | 件数 | 金額 | 採択率 |
| 活動助成 | 48件 | 26件 | 1,217万円 | 55% |
| 活動助成（特別枠） | 17件 | 9件 | 428万円 | 53% |
| 研究助成 | 51件 | 9件 | 1,185万円 ^注 | 18% |
| 合計 | 116件 | 44件 | 2,830万円 | 38% |

注）研究助成（2年助成）の金額については、1年目の助成金額のみ計上しています。

※助成期間は、2025年4月1日から2026年3月31日までの1年間です（研究助成の2年助成は2025年4月1日から2027年3月31日までの2年間）。

※各助成先の活動テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

※上表のほか、2024年度研究助成（2年助成）の研究5件の2年目に対する助成（697万円）を行います。

「2025年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

| 団体名 | 活動テーマ |
|------------------------------|--|
| あいすのぼう® | ペット防災セミナーの開催と避難訓練の実施 |
| 一般社団法人imargin | 若者による若者のための防災コミュニティづくり |
| 一般社団法人LFA Japan | 正しく知れば怖くない食物アレルギー |
| NPO法人AQUAkids safety project | 救命率向上のためのバイスタンダーサポート活動の強化(継続) |
| NPO法人輪母ネットワーク | 障害児者および要配慮者と家族および地域への防災ワークブック配布事業 |
| 大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会 | 災害リハビリテーション支援の普及と支援者レベルアップ研修会開催 および支援者の指導者育成の取り組み |
| けいな虹の会 | 遺族会及び講演会・研修会の実施 |
| 五位堂地区活性化倶楽部 | ブラインド型緊急対応訓練の普及活動 |
| こどもの笑顔を守る会～この指とまれ～ | 防災を生活の中に落とし込み自分事と捉える ～災害時にも役立つ学びを～ |
| サウンド・バーサーカー | 災害防止啓発・啓蒙活動 |
| 周産期グリーフケアはちどりプロジェクト | ペリネイタル・ロス後の深い悲しみの現状、支援の必要性や在り方を社会に伝える |
| 宝塚市自治会ネットワーク会議 | 地域ごとに災害リスクの視点から、防災活動を更に一歩前に進めよう！ |
| WPPグループ (Japan Pet Press) | 福祉とペット活動 |
| チーム防災 | 聴覚障害者への防災啓発活動 |
| 月ノヒカリ | 被災地支援におけるアレルギー配慮の実態調査を子ども食堂を活用して地域防災に活かす！ |
| 特定非営利活動法人 キャップセンター・ジャパン | 小1(幼児期)親子の安心・安全を支える事業 |
| 特定非営利活動法人 集合住宅維持管理機構 | マンションの防災・避難行動を楽しく学べる 子ども向け学習教材の開発と学習支援活動 |
| 特定非営利活動法人Go-Kuma-Kids | 子供向け防災・救急救命講習 |
| 特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット | WEBデータベースを利用した災害鍼灸マッサージ活動の調整および訓練のための事業 |
| 特定非営利活動法人全日本企業福祉協会 | 高齢者が運転能力評価結果で返納日を宣言し、返納日までに生活不便要因解消支援活動 |
| 特定非営利活動法人Happiness Kids Labo | 「家族を守る！あとまわしにしない防災準備」講座・交流会 |
| はすの会 東大阪・神戸 | グリーフケア公開講座開催及びグリーフケア提供者向け研修実施 |
| ひらけ！互磨 | 誰かをケアする人がケアされる会 |
| ママコミュ！ドットコム | 子ども食堂や障がいのある子らの居場所に安心を届ける「ぼうさいサンプラプロジェクト」 |
| 南正雀まるっと。 | 地域まるごと活性化イベント&サロン講座で防災意識向上プロジェクト |
| 結creation | 地域の宝は地域で守る！地域資料レスキューからのコミュニティづくり |
| 活動助成小計 26件 | |

【活動助成(特別枠)】

| 団体名 | 活動テーマ |
|--|-------------------------------------|
| あらいぐま大阪 | 能登地震と豪雨災害で被災した写真を手洗いしてお返しする写真洗浄活動 |
| Aloha nui loa ※ | 能登を笑顔満開に！！ |
| 一般社団法人LFA Japan | 北陸地方への災害アレルギー対応啓発事業 |
| 環境リハビリテーション科学研究会 | 能登半島沖地震における障がいのある方への避難支援及び避難システムの検討 |
| 特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア | 被災地へ届ける愛と回復の音楽活動 |
| 奈良県立大学 村瀬研究室 | 能登半島地震被災地の情報ギャップの解消を通じた支援活動及び実証的研究 |
| にじいろエイド ※ | 能登半島地震で被災し石川県野々市市に広域避難している方への交流支援事業 |
| 被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」 | 能登半島地震・豪雨の被災地における心のケア活動 |
| ふっこうのおと ※ | 被災者に寄り添った能登復興支援活動 |
| 活動助成(特別枠)小計 9件 | |
| ※「にじいろエイド」「Aloha nui loa」は石川県、「ふっこうのおと」は富山県からの応募 | |

【研究助成】

(1年助成)

| 研究者名 | 研究名称 |
|-------------------------|---|
| 大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 浅田晴香 | 災害時や有事の際にスムーズに移動可能な車椅子の開発 |
| 大阪公立大学 大学院文学研究科 橋本博文 | 列車乗降時における隙間転落の危険性についての「共有された情報」が保護者と子どもの態度や行動にもたらす効果の検証 |
| 桃山学院教育大学 村上佳司 | 幼稚園送迎バス安全性向上のための具体的運用に関する調査研究 |
| 研究助成(1年助成)小計 3件 | |

(2年助成)

| 研究者名 | 研究名称 |
|------------------------|--|
| 京都大学大学院地球環境学堂 落合知帆 | 農山村地区における災害知を活用した防災・減災モデルの構築に関する研究 |
| 兵庫県災害医療センター 島津和久 | 災害時における福祉施設入所者の避難支援のための鉄道活用に関する研究 |
| 大阪大学大学院 白石三恵 | 自助力・互助力が支える災害レジリエンスの高いコミュニティへの転換に関する研究 |
| 関西福祉科学大学 竹内 友章 | 防災から復興の連続性に注目した住民自治に基づくコミュニティ形成の方法論に関する実証的研究 |
| 四天王寺大学 辰巳俊輔 | 防災意識向上を目的とした歴史資料を通じた地震被害の理解に関する研究 |
| 奈良学園大学 松井典夫 | 登下校見守り活動ボランティアのレリハバンスと見守りシステムの開発に関する研究 |
| 研究助成(2年助成)小計 6件 | |

| |
|------------------------|
| <総合計> 44件 |
|------------------------|

「2025年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2025年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「2025年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害、不測の事態に対する備え、その後の心のケアや身体的ケア、並びに事故、災害等の風化防止に関する活動や研究」として募集いたしました。

今年度は「活動助成（特別枠）」も設定し、甚大な被害をもたらした「令和6年能登半島地震」被災地における被災者支援活動につき、石川県、新潟県、富山県、福井県に活動拠点を置く団体も対象として募集いたしました。

今回の募集にあたり、「活動助成（特別枠）」も含めて対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、大学等への訪問やチラシ郵送等による本助成の告知活動を積極的に行い、各所でチラシ等の掲出や配布、ホームページ等への情報掲出に積極的にご協力をいただきました。

その結果、応募件数は合計116件（前年93件）となりました。

このうち今年度新たに設定した「活動助成（特別枠）」の応募数17件を差し引いてもなお、対前年で増加となりました。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書を確認し、1次審査と2次審査において全案件につき、各委員で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載した当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」の視点を意識し、厳正な審査により採択案を決定しました。さらに、研究助成については、当該研究の直接のアウトプットが何であり、それが社会に対しどのようなアウトカムをもたらすかが明確に描けているかどうかについても重視しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性やニーズ、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

活動助成 35 件、1,645 万円（特別枠含む）（前年 33 件、1,565 万円）、研究助成 9 件、1,185 万円（前年 8 件、1,093 万円）、加えて研究助成 2 年目に対する 5 件、697 万円（前年 4 件、487 万円）の助成を含め、合計 49 件、3,527 万円（前年 45 件、3,145 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。

採択率は、活動助成が 55%（特別枠含む）（前年 67%）、研究助成が 18%（前年 18%）となり、全体では 38%（前年 44%）となりました。

(1) 活動助成

自然災害の備えとして防災・減災に関する応募が多くありました。次いで心のケア、身体のケア、救命、安全等に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、概ねそれらを反映した結果となりました。

(2) 活動助成（特別枠）

令和 6 年能登半島地震による被災地域や同地震により被災された方々に対する支援活動へ助成する「特別枠」を新たに設けて募集した結果、被災者の心のケアに関する応募が多く、次いで復興に関する取り組みの応募が続き、それらを中心に採択しました。なお、近畿 2 府 4 県以外に拠点がある団体として石川県から 2 団体、富山県から 1 団体を採択しました。

(3) 研究助成

防災・減災に関する応募が最も多く、次いで安全、交通、救命、身体のケア等バランスよく応募が寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に照らし、審査を行いました。加えて、それぞれ助成期間（1 年／2 年）に対し、テーマ及び計画が相応しいかの観点も重視しました。

4. 総評

今回も熱意溢れる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

全体を通じ、申請上の記載不備等により不採択となる件数が、依然として一定数ありました。今回は特に収支計画欄の内訳・算出根拠が不十分なケースが散見されました。助成金を支出させていただくにあたり、収支計画の内訳・算出根拠は、審査の重要な要素となりますので、提出時のチェックリストの活用とともに、特に再チャレンジされる皆さまには不採択事由を示した通知書等の確認を是非お願いしたいと思います。

活動助成については、応募された多くの方が地域等の安心・安全を高めたいとの想いでボランティアで取り組まれている方であり、日々の活動並びに今回ご応募いただきましたことに敬意を表します。今回新たに募集いたしました活動助成（特別枠）については、次年度もその設定を予定しております。これまでの実績から、特別枠の設定 2 年目以降に応募が増加する傾向がございます。応募いただく際には、計画される活動が、被災地・被災者の方にとって必要性や優先度の高いものであることを積極的にアピールしていただければと思います。

研究助成については、萌芽的研究、応用的研究のいずれであっても、安全・安心に関し、社会実装への期待や他の研究者に参考となるような成果などを申請書から感じられるかという観点を大事にしながら審査いたしました。当研究助成が一つのテーマに対し、助成期間にかかわらず採択回数制限を特に設けていないのは、そうした成果への到達を願うからに他なりません。今回惜しくも採択には至らず、再チャレンジをお考えの研究者の方には、所期の目的・成果実現に向け、必要な助成期間を選択いただくとともに、研究テーマの最終的なゴールイメージを申請書の目的欄に、今回の助成期間における到達点を申請書の成果欄にそれぞれ記載いただき、研究成果に至るまでのロードマップとしてお示しいただきたいという点にご留意いただき、次の機会にぜひご応募いただきたいと考えております。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様に敬意を表すと同時に、今後の益々のご活躍を心よりお祈りしております。